

立憲民主党の活躍を期待し、「草の根から」参加しましょう!

みんなで即決して動いた県ネット

10月の衆院選では埼玉県市民ネットワーク(以下県ネット)は、立憲民主党を応援しました。県ネットの運営委員会ではすぐに「応援しよう!」と意見が一致し素早く応援体制を組みました。政策パンフ配布、越谷ネットの山川百合子さんの選挙活動応援、大河原さんの各種集会や施設への案内、支持者への電話かけなどを行いました。

その結果埼玉県を含む北関東ブロックでは、昨年参院選で応援惜しくも落選した大河原雅子さん(元生活者ネットワークの東京都議)が比例区で当選し、枝野幸男代表は小選挙区で当選。比例に回った山川百合子さんなど、立候補した6名全員が当選するという快挙でした。

立憲民主党を押し上げた強力な追い風

活動していて最も感じたのは、強力な期待の風が立憲民主党に向かって吹いていることでした。

それは怒涛のように激しく、「大義なき解散」、「大義なき野合」のドタバタ劇に心底失望し「投票先がなくなった」と感じた人たちが、枝野代表の「まっとうな政治」を訴える姿とその政策に、「やっと一票を投じられる」という安堵、共感の思いが激しい風になったのだと感じました。



運動グループ協議会に大河原雅子さんを迎えて

初めて納得して応援できる政党に出会った

埼玉県ネットでは、これまで国政政党を応援してきましたが、今回初めて納得できる政党に出会えたと考えています。その理由は、3つあります。

- ①立憲主義を標榜していること
- ②ボトムアップの政治、草の根からの自治をめざしていること
特にボトムアップの政治は全国市民政治ネットワークが「わたし発」の政治のスローガンのもとに第一にめざしてきたことです。国政政党がそのことを標榜する、こんな力強いことはありません。
- ③5つの柱、24項目の政策。
特に【1日も早く原発ゼロへ】【徹底して行政の情報を公開】【憲法9条改悪反対】に強く期待します。

いつの日か政権を

これから枝野代表のもとで、より力強い政党へと体制がとられていくと思います。私たちが特に期待するのは、ボトムアップの仕組みです。私たちには大河原さんや山川さんという国政へのルートができました。けれども多くの国民はそんなパイプを持ちません。国民の声を「いつでも、誰からも」吸い上げ、取り入れるシステムをつくり、真の民主主義への新しい道を切り開いてほしいと願います。

また地方組織を強化し裾野を広げて、いつの日か実力のある政党として政権交代を行ってほしい。そのために私たちも望みだけではなく、参加、応援をしていかねばと心を引き締めています。

埼玉県市民ネットワーク通信

いっしょにやる! なんとかなる!
自分発でもくらしー!



2017年12月発行 53号

放射性除染土についての自治体の意向・動向を調べました

回答は県内の4割近く、面積では6割に上る24市町から

2011年の原発事故から6年半たちましたが、多くの問題が未解決のままです。中でも福島県内の除染土や埼玉県内の除染土はどうなっているか気になります。

環境省では、事故の現地で発生した除染土を全国の公共事業に使いたいと、福島県内で実証試験をしています。私たちの町はそれを受け入れるのでしょうか?それも気になることです。

また、埼玉県内で発生した除染土は適切に安全に管理されているのでしょうか?

埼玉県市民ネットワーク(以下県ネット)と生活クラブが呼びかけた結果、県内24か所の自治体に生活クラブの支部委員やネットメンバーが出かけて調査をした結果が出そろいました。

除染土を公共事業に使いますか? という問いには...

「国の動向を見守る」市町がほとんど

原発事故で発生した除染土を自分の町の公共事業に使うかどうかは「国の動向を見守る」がほとんど。

「住民の健康や不安を尊重し(どんな場合も)使わないようにしたい」と回答したのは3市のみ。(吉川市、坂戸市、北本市)「町内で発生した残土が大量にあるので、除染土を使うつもりはない。」という回答が1町(吉見町)。

それ以外は、「現在は考えていない」「判断できない。」「国の動向を見守り今後判断する。」という回答がほとんどです。国が「使え」と言えば利用しそうな市町がほとんどです。



写真1 某小学校の除染土埋設場所。看板もなく子どもたちの遊び道具が置かれている。

県内で発生した除染土の保管状況は

除染土の量は

調査した24自治体のうち、汚染土が見つかった自治体は14市。保管量は928,450t。2トン車でいうと46万4000台以上。(容量や重さでの回答を重さに統一して換算しました。)計量せずに埋めてしまった市も4か所ありました。

除染土は子どもたちの利用する学校や公園に埋められている!!

除染土が原則どおり「集中・隔離」保管されているのは2市のみ(所沢市、鶴ヶ島市)。所沢市は廃校のプール小屋に出入り禁止の形で厳重保管(写真1)。その他の市ではなんと子どもたちが利用する学校や公園に埋められています。地面の上の空間放射線量の検査も不十分なところが多い。小学校で保護者や子どもたちがふつうに通る場所の下に無造作に保管されている所もあります。(写真2)



写真2 廃校のプール小屋にカギ・看板付きで厳重保管されている所沢市の除染土置き場

いっしょに行動しませんか

除染土について未調査の市町村は調査をしてみましょう。

また、「原発事故の現場の除染土を公共事業には使わないでください」「市内で発生した除染土をきちんと管理してください。」「抜本的な解決のために「放射能汚染防止法」を制定してください。」「脱原発を進めてください。」そんな声を行政や議会にいっしょに届けませんか?生活クラブと県ネットは埼玉県に要望書などを提出する予定です。

埼玉県市民ネットワーク 地域ネット一覧

- ・生き生きネットワーク鴻巣
- ・越谷市民ネットワーク
- ・市民ネットワーク鶴ヶ島
- ・市民ネットワーク所沢
- ・富士見市民ネットワーク
- ・ネットワーク三芳
- ・よしかわ市民ネットワーク
- ・まちネットワーク寄居
- ・羽生市民ネットワーク準備会

- 鴻巣市吹上富士見 3-11-12 西尾方
- 越谷市東越谷 1-5-17 共生建設第2ビル1F
- 鶴ヶ島市富士見 3-27-106 大野方
- 所沢市小手指町 4-17-48 光ハイツ1F
- 富士見市針ヶ谷 1-26-18 加藤方
- 入間郡三芳町北永井 871-5-3-403 鈴木方
- 吉川市きよみ野 3-17-23 岩田方
- 大里郡寄居町今市 212-1 大北方
- 羽生市南羽生 3-6-11 佐藤方

01 多くの人に出会い、繋がり、繋げていきたい！
よしかわ市民ネットワーク

代理人 2 年目の今年は、吉川を知り出会うための企画満載です。自然の価値を生かしたまちづくりを目指し、特別栽培米「吉川のしずく」について学び、農業従事者や新しい参加者とも出会いました。実際に 1 反の田んぼで稲作に挑戦。知るだけでも驚きの連続ですが、5 月 20 日には田植え、その後の除草、農薬散布、稲刈りまでを体験する予定です。収穫祭も楽しみです。

また、吉川美南駅周辺地区土地区画整理事業や国民健康保険税について行政を招き市民向け学習会を開催し、吉川の現状を知るため、障がい児放課後等デイサービスについて NPO 法人の「TekuTeku」、民間の「DEKITA!!」を見学しました。一口に放課後等デイサービスと言っても重度障害の子を受け入れ、その為に必要な制度を模索しながら取り組んでいる所と、軽度の知的障害、発達障害の子を進学・就職に繋げる塾のような所など違いを知りました。発達障害に対する理解が少なく、地域にどう発信し連携していけばよいのかは共通の課題でした。

いろいろな立場の人と出会える場を作り思いを共有し繋がることで、少しずつ新しい輪を広げています。



02 NPO と共同で介護人養成研修を開催
越谷市民ネットワーク

障害者の就労支援を行う越谷市の NPO 法人障害者の職場参加をすすめる会と生活クラブ生協地域協議会が、介護人養成研修を 4 月から共同開催しています。

越谷市は全国的にも数少ない自薦登録型ヘルパー制度（利用者と介護事業所との契約ではなく、利用者と介護人の直接契約によるサービス）である全身性（知的）障害者介護人派遣事業を実施している自治体ですが、この制度をもっと生かすために介護人を増やし、地域福祉の基盤を広げていこうというのが今回の試みです。これは地域協議会の構成団体である越谷市民ネットワークが、以前から交流のあった同 NPO との間を仲介して実現したものです。

研修の内容は、実際に障害のある人とない人が一緒にお花見をしたり電車に乗ったりする企画の他、障害福祉制度をどのように実際に使っているのかを制度利用者から聴く座学なども取り入れます。研修会は毎月 1 回程度のペースで 1 年間開催予定です。



03 憲法改憲、決めるのは私たちです
まちネット寄居

2015 年、10 年間続けてきた「今しか聞けない戦争体験のお話」の企画を終了した。その後、この企画から学んだ「戦争をしない、平和への取り組み」をどのように進展させていくか考える中で、2016 年ドキュメンタリー映画「不思議なクニの憲法」の上映会を開催。それを契機に、憲法カフェのように専門家に依頼するのではなく、ネットの運営委員が自前で情報収集し、読み込み、「現行憲法」と改憲内容に最も近いとされる「自民党憲法改憲草案」を、重点項目を絞って対比しながら 2 回の憲法学習会を開催。憲法の基本原理を確認し、本当に改憲が必要なのか、何が問題なのかをきちんと捉えていこうと取り組んだ。改めて日本の平和憲法の素晴らしさを痛感する。参加者も少数でまだ小さな取り組みでしかないが、いよいよ改憲が現実迫ってくる中、「戦争のできる国へ」と向かう動きに、地域でできることを検討していきたい。



04 上映会を実施して
市民ネットワーク所沢

ドキュメンタリー映画「薬は誰のものか〜エイズ治療薬と大企業の特許権」(2013 年インド) 上映会 & アジア太平洋資料センター (PARC) 内田聖子さんトークを 5/26 所沢生活館で開催しました。上映後は参加者全員で熱く話し合いました。

1996 年に開発されたエイズ治療薬が入手できずアフリカで数千万人の患者が亡くなっていました。命を救うため奔走した医師、NGO、ジェネリック製薬企業。

新薬開発は巨額の開発費が必要と消費者は信じているが実際の 8 割以上が広告、株主配当等に使われています。TPP など自由貿易協定で特許権は更に歪に保護されようとしています。命を利潤追求、金勘定の道具にすべきではありません。「あなた達一人一人にやれることがあります」という言葉が強く心に残りました。



05 塾カフェひだまり
ネットワーク三好

子供食堂をたちあげてから半年たった。週一度の付き合いだが性格や家庭環境が少しわかり、問題を背負っている子供たちと向き合うのはつらいこともあるが楽しいことのほうが多い。先日、中 3 の女の子たちが運動会に来てと言ってきた。聞けばお弁当は忙しい家族には頼めない自分で作るという。スタッフ仲間がお弁当作りをかってでると「わーい」だって。私たちは塾カフェひだまりを始めて地元で全く知らなかった子供たちに出会い幸せをもらっている。

縁がなかった小中学校の行事を楽しめ、登下校時の楽しそうな姿がみられる。地域でつながりがあった昭和の時代の年寄りにはこんなだったかも。私たちは地域の人に子供たちの現状を知ってもらいより多くの人に子供たちとつながってもらおうと考えていきたい。



06 見学記「下水道の仕組みと放射性物質」
市民ネットワーク鶴ヶ島

下水汚泥の焼却灰から放射性廃棄物が発生していることを知り、3 月議会で代理人が質問した後、焼却施設のある公共下水道終末処理場・石井水処理センターを見学してきました。

鶴ヶ島市は、県とは別に、坂戸市と一緒に下水道組合を置いています。石井水処理センターは、微生物の力で浄化する「標準活性汚泥法」の施設です。

放射性物質の検査は、汚泥も焼却灰もそれぞれサンプルを 3 検体抽出したものを混ぜて、専門業者に分析を依頼してました。汚泥は不検出（検出限界未満）。焼却灰は、毎月測定し国の基準値以下であることを確認しているそうです。

この地域は、汚水管と雨水管が分かれているので、放射能の影響が比較的少ないということでした。

放射性物質の不安から見学にうかがいましたが、そのことだけでなく、処理水が、荒川水系の飯盛川に放流されて、水道水の原水となるということも、改めて確認してきました。



07 越谷ネット見学
羽生準備ネット

越谷ネットの事務所は、老若男女、「多様な市民の交流の場」でした。ネットの活動を通して出会いがあり、出会いを通して何かの活動が生まれ、と繰り返すなかで越谷ネットができていて、しっかりと市民と市政がつながっていると感じました。事務所まで私たちを迎えてくださったみなさん 8 名、年齢も職業もいろいろですが、ネットへの熱い思いが感じられました。そしてその人なりの特技を發揮して、いきいきとネットの活動をしているようでした。羽生も、それぞれが忙しい中でも、楽しくネットの話し合いや広報など定期的に取り組みをしていければと思います。(A)

とにかく印象的だったのが「いろんな人がいた」ということ。そしてみんな笑顔で楽しそうに活動をしていたということ。まだまだ立ち上がったばかり（それどころか寝起き状態？）の羽生準備ネット。手探り状態の私たちですが「とりあえずやってみようかな！」と前向きな気持ちをもらえた見学会でした。(S)

08 今後の富士見市民ネットワークの活動は
富士見市民ネットワーク

今年 3 月の市議会議員選挙では、落選という残念な結果となりました。しかし県ネット、他ネットの協力・支援に対し深く感謝をしています。皆さんの応援がなければ、選挙活動自体が成立しませんでした。

今回、立候補者は、定員に対し 7 名も多かった。初候補者は 3.40 代が殆どで、この世代の地方政治への関心の高まりが見て取れるが、投票率の年代比較では最も低かった年齢層である。これを 4 月発行のネット通信 1 面のページで取り上げました。

反省としては選挙マニュアルを活かしきれず、富士見市民ネットの取り組みが弱かったに尽きる。私自身とメンバーの高齢化と明確な選対の責任者がいなかった点も大きい。選挙期間中、選対は 1 回も開かれず他の候補者の必死さと比べ反省している。

根強いネットへの支持があるが、若年層へのネット活動の意義が浸透していない結果と受け止められる。ネットワーク活動が可視化されていない弱さを実感した。

ネットとして課題を学習し、市民に対し発信、共に語り合う場が必要とされていると考える。今年度は活動方針に基づいて、限りある財源のなかで可能性を検討する。それぞれの会員が抱えている多忙さ、関心の多様化さらに高齢化の中でしっかりとした議論が必要である。

